



中川ただあき県政通信 [水] ウォーター

Water 水

NAKAGAWA TADAAKI "KENSEI TSUSHIN"

[第27号]

発行日／平成26年3月28日

発行所／自由民主党富山県議会議員会



ご意見を
お待ちして
おります

● Tel. 076-495-8739 ● Fax. 076-493-6166

● メール : nakagawa@tadaaki.jp

● ホームページ : <http://www.tadaaki.jp>

facebook 中川ただあき公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/tadaaki.nakagawa.3>

躍動する富山へ
希望をもてる富山へ
全力で取り組む



新しくなる富山駅前にて

今年も早いもので、3カ月が経ち、新年度に入り、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃からご指導ご鞭撻を賜り、心から厚くお礼申しあげますとともに深く感謝申し上げます。本年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

県議会では、北陸新幹線開業がいよいよ来年3月ということで、開業効果を引き出すための施策や景気対策など盛り込まれた平成26年度予算案も可決し、新しい年度がスタートしました。

これまでの一年を振り返ってみると、昨年参議院議員選挙があり、結果として、自民党中央の政権ができ、政治もようやく安定し、安心して仕事ができる状況になったのではないかと思います。

私自身、北陸新幹線、農業、観光、教育、警察署再編整備、台湾便、近代美術館、テクノホールなどの諸課題について、県議会で質してきました。

しかし、米の1等米比率、品質の低下、児童生徒の学力の低下、警察署再編整備の遅れ、まちづくりの遅れなどにおいて、危機感が希薄のためでしょうか、真剣に真正面に向かって取組む気概というものがまだまだ感じられないし、力強さ、躍動感不足を感じざるを得ません。

一方で、2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決まりました。本県では、正月早々、何と言っても富山第一高校サッカー部の全国制覇であり、あの最後まで諦めない果敢に戦う姿に、感動しました。また、ソチオリンピックでは県内企業(株)ダイチが育てているスピードスケートの田畠真紀選手、穂積雅子選手が出場し、メダルには届きませんでしたが大変頑張ってくれました。

まさに、スポーツの力で県民に勇気と感動と元気を与えてくれたことに感謝するとともに、この、最後まで諦めずに挑戦する気概をもって今年も頑張りたいと思ってますので、よろしくお願い申し上げあいさつといたいたします。



眼前にせまった新幹線開業。期待が膨らみます。
しかし、様々な課題も浮き彫りに。
一つひとつ、着実に“とやま”らしい施策を進めて、
県民が豊かに、幸せになるよう取組みを進めよう！

官民一体となって最大限の力を出そう！

県民悲願の北陸新幹線開業まで一年を切りました。新しい富山駅の外観が見えはじめ、開業への期待が高まる一方で、新幹線が開業しても在来線の高架化が完成し、南北一体化工事が完成するのが平成30年度末であることもあり、商業・飲食業など誘客施設の駅周辺整備などが未だ途上であります。

新幹線開業は人の流れを変えるものであり、交流人口を大きく増やす原動力になります。その拠点は新幹線駅であり、重点駅は富山駅でなければなりません。

そのためには、高山への直通バス新設などを含め県内外へアクセス可能な二次交通体制を充実し、本県のみならず近隣県も含めた広域観光の核として内外から認知されるよう、明確なビジョンの下、広域観光の玄関口にふさわしい、優れた拠点性を備えた施設になるよう重点拠点として整備し、そこに人を誘導する施策が必要です。

また、幹線の開業効果を引き出すため、官民一体となって知恵を絞り、プランを協議する場として、昨年は「新幹線戦略とやま会議」が設置され、多くの提案がなされ、平成26年度予算には、新幹線開業直前対策枠として約20億円盛り込まれています。内容は観光・交流、産業・地域活性化、富山のブランド力アップ、県民機運の醸成、首都圏に向けた情報発信などであり、県挙げての取組みが欠かせません。

そのためには、最低限、施策のスケジュール管理や効果検証等は一元的に行うべきこと、県内の民間の力を効果的に引き出すために、イベントや賑わいづくりなどの企画提案を含め、積極的に県内企業に受注の機会を与えることは当然必要なことがあります、なによ

りも、県民一人一人が「より質の高いものを」「本物志向を」を目指し、経済を活性化させなければならないという、共通の思い、気概を持つことが必要であると思います。これまで、新幹線開業に向け、県、市町村、経済界、各主体がいろいろと頑張ってきています。これからが勝負です。石井知事は「100年に一度のビッグチャンス」と言って、県民や企業の皆さんがあなたをだせるよう、知恵をだしていただけるよう支援すると答弁されています。課題も多いですが、官民一体となって共に頑張っていこうではありませんか。いろんなご意見をよろしくお願いいたします。



2015年春 北陸新幹線開業

北陸新幹線開業を全国に発信するためのキャッチフレーズとロゴデザイン

治安は大丈夫か！ 警察署の整備を早く！

新幹線開業にともなって輸送能力が600万席から1,900万席になり、大変な人の出入りが予想され、治安問題が心配です。富山は危なくない、安心してどこでも行ける、住めるということが非常に大切です。

警察本部では、新幹線の治安対策検討会を設置し、富山中央署、北署、南署の再編整備をも含めた検討を進めていますが、私はかなり遅れていると感じています。特に多くの人が行き交うことが予想される富山駅を中心に、現在の検討状況について、警察本部長に質しました。

(平成25年3月)

◎警察本部長の答弁要旨

新幹線がどういう影響を及ぼすか。特に富山駅ですが、駅周辺の交通の流動性が大きく変わると考えられます。ビジネス客、観光客、そして犯罪者もくる。テロの懸念もあります。

そう考えると、富山市中心部の治安情勢、私たち警察力の配

備の考え方を根本的に考える必要があります。

富山市内警察署の再編に当たっては、新幹線の開業に伴う治安情勢の変化を第1に、それから富山市中心部の特殊性、この2つをしっかりと踏まえ、早期に結果をださなければならぬと考えています。



私は、射水署建設が終ったのち、直ちに平成25年4月から新しい署が工事着手できるよう強く発言してきましたが、ようやく、富山中央署、北署、南署の再編計画が昨年できました。この3署を2署にします。

一つの署はアパホテル富山駅前店北側に、もう一つの署は富山ICから南側に建設されます。この2署が完成してはじめて、新管轄区分により、機能が発揮されます。即ち、あと4～5年かかります。残念！！

これからも、1日でも早く完成するよう取組みます！

TOPICS テクノホール増築 コンベンション機能を強化！

かねがねコンベンションの誘致、施設の増強を訴えてきました。特に新幹線開業を機に大規模な見本市が開催できる施設を整備し、集客、交流による経済効果を引き出す必要があると考えてきましたが、富山市友松のテクノホールの増築に向か、県は新年度予算に基本設計費と実施設計費を計上することになりました。新年度末までに設計を終え、翌15年度の着工を目指します。

テクノホールの再整備は、既存施設の隣（旧消防学校跡地）に約4,000平方メートルの展示場を増築し、これらをホワイエで繋ぐ計画です。増築する展示場は産業展示会の会場になるほか、間仕切りして商談や会議用の小部屋を設けられる多機能型となる予定です。



テクノホール増築予定地

コンベンションの経済効果と目標は！

コンベンションの経済効果は、県内での平均消費額は約5万4,000円/人、これに昨年度の県外参加者数約4万7,000人を乗じると、約25億円の経済効果があったと推定されています。このほかにも経費が県内で支出されており、コンベンション誘致は大変重要なものと考えます。

私は、富山県のコンベンション参加者の目標設定を高くすることも必要だと思います。そうすることで、民間の投資を呼び込み、宴会場あるいは会議場、そしてホテルなどの投資効果を引き出させができるのと思うからです。知事は、コンベンションの効果は認めながら、こう述べています。「ビジネスの視点からいろんな取り組みをしていただくように、今後民間にも懇意したいと思いますし、県や市町村、経済団体、大学と連携して大規模コンベンションのさらなる誘致に取り組んでまいりたいと思っております。」

設備投資をしてもらえる環境をもう一歩、積極的に取り組むべし！

県立美術館の移転をめぐって。—安全性とまちづくりの議論が—

現在の近代美術館には時価で約270億円ともいわれる美術品が収蔵されています。移転を考える場合、今よりも安全な場所を選ぶのが当たり前です。しかし、富岩運河環水公園西地区の建設予定地は、洪水ハザードマップによると5m（詳細に調べたら1.8~2.1m）の浸水が想定されています。また、呉羽山活断層が直近を走っており、その影響も危惧されます。

この場所の景観環境は、素晴らしいと思います。しかし、最初からこの場所ありきで検討が

進んだのではないか。災害の可能性について十分議論がつくされていないのではないか。自然災害は想定以上の脅威があります。安全性を考えたとき、果たしてこれでいいのだろうかという疑問から、担当部課長に見解を質しました。

（平成25年9月）

陥性がどうかなどを客観的、総合的に検討されます。

洪水対策としては、展示室や収蔵庫を2階以上に配置することで対応できるのではないかと考えています。

また、活断層の懸念に対して、県防災会議地震対策部会長の室崎先生に意見を伺いました。その結果、断層の直上でなければ現行の耐震設計法で建物を設計すれば問題なく、美術館の安全性対策上の問題はないと考えています。

◎県担当部課長の答弁要旨

一般的に公共建築物の選定にあたっては、建設に必要な面積用地の確保、公共交通機関やマイカーによる利便性、災害の危

杞憂！

富山県立水墨美術館も水浸2~5メートルで、活断層の近くにあることを考えれば、本県の美術作品がこんな危険な所に全部集まることになる。むしろ水墨美術館の作品もより安全な所に移すぐらいのことを考えるのが、まっとうな考えではなかっただろうか。

もう一つは、現在の場所を含め、まちづくりの観点からまったく議論がされなかった点です。

元気臨時交付金を平成26年度まで使わなければ“損”という考えは、拙速で長い目で見れば貴重で世界的な美術品を失うことにならないか。

兎に角、杞憂に終わるためにも、すばらしい美術館を作ってもらいたい。

今後は、現在の近代美術館をどうするのか、セントラムを中心としたまち中の賑わいづくりやコンパクトな街づくりを含め、県と市の連携力が問われる！



近代美術館移転予定地



現在の近代美術館

台北便の搭乗率向上、アジア交流のハブ空港へ！

10月下旬に富山・台北便が月曜、金曜の週2便へ減便となりました。4月から週4便となり、通年での週4便、さらにはデイリー化を目指していたところ、前年と同様に減便となつたことはまことに残念でした。

富山きときと空港の国際航空路線が将来にわたり安定的な運航を図るために一定の搭乗率を維持することが求められ、より多くの方に利用してもらうことが不可欠です。

北陸新幹線開業により、陸上交通網のアクセス範囲はむしろこれまでより広ります。国内でのアクセスのよさを活用したアジアへの玄関口として、富山きときと空港のハブ空港化を目指した取り組みを進めるべきと考えます。

そこで、富山きときと空港の国際航空路線の安定的な運航に向けてどのように取り組むのか、環日本海・アジア交流への拠点

としての空港づくりや台北便や大連便の増便への決意も含め、知事に伺いました。

(平成25年11月)

◎知事の答弁要旨

富山きときと空港は、地方管理空港としてはトップクラスの5都市の国際定期便を有しています。県ではこれまで中国、韓国、台湾など国際定期路線あ

るいはチャーター便のPR、旅行商品等の開発支援、国際定期路線利用の各種助成などを通じて利用促進に努めてきました。

今後、北陸新幹線の開業で身近となる長野県を初め、近隣県でのエアポートセールスを積極的に開催し、北陸、北信越、飛騨地域での需要拡大を図ってまいりたいと思っています。

台北便については、週4便と



なった今年4月以降の搭乗率は70%を超えて好調に推移していましたが、今年の冬季ダイヤでは残念ながら週2便の運航となり、県としては、早く増便してもらえるようチャイナエアラインと引き続き協議を続けています。また、来年3月末からの夏ダイヤにおいても、さらなる増便を働きかけてまいりたいと思っています。



!! 週5便～7便に！知事の頑張りです！

協議の結果、台北便が本年3月30日～10月24日まで週5便に、さらに4月15日から5月31日までは毎日運航されることになりました。富山県日華親善協会会長としても、大変嬉しく思っております。台北便の課題は、冬期間の観光客が台湾からも富山からも魅力を見つけ、増やす努力をすることです。是非、皆様に台湾を訪れていただきたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。



富山きとくと空港

発展するインドと経済交流の促進を

昨年11月に富山インド協会でインドを訪問しました。現在、インドの産業構造は厚みを増しており、北部から南西部を貫く自動車地帯、中部は鉄鋼、南部はITを中心とするソフト産業が広がっています。このうち、ムンバイ市を擁するマハラシュトラ州は、日本とほぼ同じ約1億2,000万人の人口を有し、インド最大の経済規模を誇っています。

訪問したムンバイ総領事の説明では、民間企業が単独でインドへ進出するには、大変複雑な税制度、工場敷地の確保などの点でまだまだ難しい問題があり、和歌山県とマハラシュトラ州が県同士ではじめての友好交流に関する覚書の締結は、企業間の交流、そしてインド市場への展開につながることでした。

そこで、経済発展が著しいインドとの企業間交流や観光交流を推進するため、日本の県に当

たるインドの州との経済交流に関する覚書の締結について知事に伺いました。

(平成25年11月)

◎知事の答弁要旨

本県では、既に13社29事業所がインドへ進出するなど、経済交流の機運が高まっています。私も経済界の皆さんと訪問し、中央政府関係者や様々な方と交流し、県内企業の進出支援を要請しました。

昨年9月にはインド商工会議所連合会の方々に御来県いただき、現地の投資環境を紹介するシンポジウムを開催したほか、



財閥ヒンドウジャグループの本社

10月には県の薬業連合会とインドの製薬工業協会が覚書を締結するに至りました。

議員が指摘される富山県とインドの州との経済交流に関する覚書の締結は、より一層交流を深める有効な手段と考えています。

ただ、本県企業の進出は、相当多くの州にまたがっておりますので、どの州との間でどのような成果を期待して行うかも含めまして、今後経済交流などの状況を見きわめながら、またいろんな進出企業の御意見なども伺いながら、必要な研究、検討を行ってまいりたいと思っております。



アジャンタ石窟

看護師の養成・確保は大丈夫か！

本県の看護職員数は、平成20年と比較して約1,300人増えていますが、とりわけ看護師については、福祉施設や在宅看護などの需要の高まりが見込まれるなど、その役割と養成は今後ますます重要になってくると考えます。

現在、県内の看護師養成は、大学、短期大学、医師会などの13施設で行われています。現場の需要に応じてどの程度の人材をどのように育成する必要があるか、既存の機関の大学化や学部等の新設なども含め、支援のあり方などを中長期的に考えていくべきです。

次期の看護職員需給見通し作成が平成26年度からスタートします。県として、富山県における看護師養成の見通し、並びに大学の新設等も含めた養成機関のあり方と、支援のあり方についての方向性を知事に伺いました。

(平成25年11月)

◎知事の答弁

県としては、これまで何としても看護職員の確保を図ろうと、養成確保、職場定着支援、再就業支援を3つの柱として取り組んできました。その結果、看護職員は順調に増加して当初の見込みを上回っています。

次期看護職員需給見通しの策定に当たっては、医療福祉現場

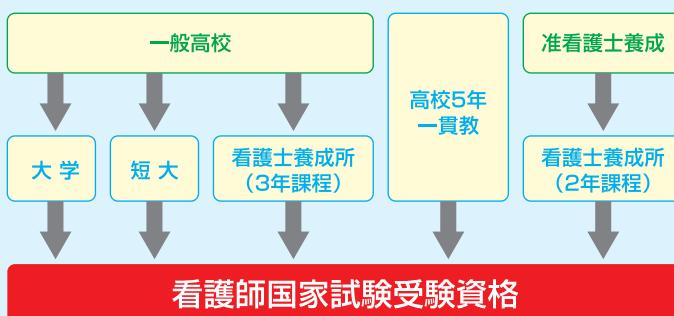
の需要と供給面での看護師養成の見通しなどをそれぞれ適切に織り込むことにしています。その際には、養成機関とか医療機関、福祉施設、関係団体などのいろんな御意見を幅広くお伺いし、しっかりした需給見通しとなるように取り組み、必要な支援も行ってまいりたいと考えています。



平成26年2月議会で知事は、「4年制看護大学について設置基準を調べるとともに、養成機関の在り方の研究を始めた。関心を示す法人があれば、情報提供したい」と、民間による新設に期待感を示しました。県内では、看護系4年制大学を希望する高校生が流出することが多く、戻ってこない実態があると聞いています。全国では1991年度に11校だった4年生看護大学が、2013年度は210校に増えています。一校しかない県は2014年度にはほとんどなくなることから、知事は「質の高い看護師の確保は重要な課題。県内で4年制大学ができれば、流出を止めることができる」と述べ、ようやく前進の兆しがでてきました。

全国の看護大学の設置状況は、一校しかない県は6県ですが、既に2校目を計画検討中が4県となっており、本県と岩手県だけが取り残される実態です！

県内の看護士養成の現状



課程	学校・養成所名	1学年定員
看護師	富山大学医学部看護学科	80
	富山福祉短期大学看護学科	80
	富山病院付属看護学校	40
	富山県立総合衛生学院	100
	富山赤十字看護専門学校	40
	厚生連高岡看護専門学校	25
	高岡市立看護専門学校	30
	高岡市医師会看護専門学校	40
	富山医療福祉専門学校	40
	富山市立看護専門学校	40
三年課程 小計		355
	富山市医師会看護専門学校(昼間)	60
	二年課程 小計	60
准看護師	富山県立いぎみ高等学校(5年一貫)	40
	看護師 合計	615
	富山市医師会看護専門学校	90
砺波准看護学院		20
	准看護師 合計	110

県産米の品質向上対策は甘いのではないか！

これまで、1等米比率が低下するたびに、我々は地域別、農業者別、管内別など詳細に分析し原因を究明し、対策を講じるよう強く発言してきましたが、そのかいもなく昨年の1等米比率は主力品種のコシヒカリは64.9%と情けない結果に終わりました。

何回も繰り返される「厳しい産地間競争の中で富山米の評価が一層高くなるように努力してまいりたい」という県の言葉は空しい限りです。

これまで、1等米比率の低下原因を高温障害に特化して、遅植えなどの対策を講じてきましたが、依然低下している現状があります。

等級を下げる大きな要因は、登熟不良によるものであります。その原因にも大きく分けて、土中の酸素不足と土壤水分不足があり、いずれも根が小さく、根の活力の低下をきたし、澱粉がいきわたらず、白未熟粒ができると聞いています。どうも、その場所は、田面の低いところや粘土質の高いところで、水がたまりやすく、排水の悪いところ、または、田面が高く砂質の高いところで発生しやすい。つまり同じ田圃や地

域でも、均一でないと根の張りが違うと言う。

もし、そうだとすれば、圃場の点検を行い暗渠排水や客土などの対策を講じて栽培管理しやすい圃場に整備するとか、キメの細かい栽培管理指針をつくり対処すべきであると思います。

これらのことから、高温障害を原因として特定すること自身、疑問に感じます。そこで、1等米比率が低下している現状を、どのように考え、抜本的な対策をどのように講じていくのか、また、市場評価を得るためにには、等級ばかりではなく、食味向上対策が極めて重要です。食味が特Aを12年間も獲得できない原因についてはどのように分析し、どういった対策が有効と考えているのかをあわせて、農林水産部長に伺いました。

(平成26年2月)

◎農林水産部長答弁要旨

全県的に解析したところ、「登熟期の高温」に加え、個々の栽培管理の違いによる影響も大きかったと考えています。具体的には①害虫や雑草防除のた

めに、中干しを適期に実施しなかったこと②市街地近郊で、農薬散布を十分に実施しなかったこと③コシヒカリに作付けが集中し、適期に収穫されなかつたこと④地域によっては、きめ細かな栽培管理がなされなかつたことなどに課題がありました。

そのため来年度対策として、これまでの、田植え時期の繰り下げに加え、①地域毎の地力・生育に応じた追加施肥②地域の状況に応じた害虫、雑草防除方法や実施時期の改善③普及指導員と営農指導員が一体となった啓発活動の徹底④高温に強い品種の作付け拡大などにより、1等米比率の向上を目指したい。

また、食味については、日本穀物検定協会から、25年産米は、香りと外観は優れていたが、食味につながるタンパク含有率が基準米とあまり差がないと、意見をいただいています。

その対策としては、過剰な追肥を控えてタンパク含有率の低下が図られ、管理が徹底された米を県内広く収集し、詳細な分析、食味を確認するなど選定の上、取り組んでまいりたい。



!! 本当の原因をつきとめ、
対策を講じなければ美味しい米は生産できない！

主権国家と憲法改正を推進する富山県地方議員連盟を立ち上げる。

現在、国際社会において我が国の地位が揺らいでいます。G H Q主導による憲法では、国際貢献どころか、領土・領海の自衛すら拘束される状況です。主権国家としてのあり方や憲法改正の議論は国民レベルで遅れており、地方議員である我々も責任を持って取り組んで行く必要があるとの趣旨で昨年6月に設立し、会長に就任しました。自民党県議全員、県内市町村議員あわせて約150人の会員。

未来へ、強い農業へ！

—「とやま農業未来カレッジ」が来年4月開校—

これまで農業大学校がない富山県の研修体制を一層充実させよう提言してきました。

その後、農業後継者育成確保対策検討委員会が設置され、平成25年12月10日「農業後継者の研修体制のあり方に関する報告書」を知事に提出しました。

報告書は「第1 農業後継者を巡る情勢と課題」「第2 農業後継者の研修体制のあり方」「第3 新研修期間の設置に向けた提案」から構成されています。特に3では、カリキュラムなど細かな内容の提案となっており、就農に必要な基礎知識、技術を提供し、地域農業

のリーダー育成に大きな期待が寄せられています。

ただ、農業大学校には至らなかったものの、一定の評価はしたいと思います。今後、一年間でどれだけ習得できるか課題も多くありますが、来年4月の開校に向かって前進しました。

新研修機関の設置に向けた提案図

1 研修期間・募集定員について

(1)研修期間等

- 1年間(4月入学、3月卒業) ○週5日(通学による)
- 1日(90分×4限)6時間の研修を基に、農家派遣実習や夏期合宿等を組み合わせ柔軟な時間設定を行い、年間1,200時間以上の研修時間を確保する。

(2)募集定員

- 15名を基本とし、最大20名まで受け入れ可能とする。
(新規就農目標50人×8割の半数程度[1年研修希望45%])
- 併せて、短期基礎講座(既就農者が受講可能な公開講座)を20名程度受け入れ可能な体制とする。

2 カリキュラムの構成について



座学 本県の當農状況に即し、基礎・理論を主体にした構成
科目例
基礎科目 富山県農業の現状、植物生理、栽培技術（主穀作、園芸）、土壌肥料、気象、農業（病害虫、雑草）、機械概論、農政時事 等
応用科目 GAP、環境保全型（有機）農業、販売・流通、農業経営、情報処理 等
専門科目 農業政策、労務管理、経営計画、農産加工、6次産業化 等

実習等 農家派遣 先進農家等のほ場を借り上げて、プロの技術を学ぶ実習や、農家派遣実習を受入農家等と連携し、組み合わせて実施
作物例
主穀作 水稻、大麦、大豆
野菜 露地野菜（白ねぎ、里いも、大根）
果樹・花き 果樹（りんご、なし）
花き（チューリップ、小菊）等

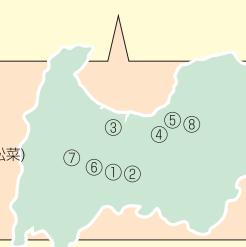
機械演習 機械の操作や点検・整備のほか、資格取得等を含めた演習を実施
資格等の例
必須 農耕用大型特殊自動車免許、刈払機安全操作技能演習、農業機械士
選択 農耕用けん引自動車免許、毒物劇物取扱者、危険物取扱者、小型フォークリフト運転技能講習

進路指導等 自分がやりたい農業の実現に向け、年鑑を通じて指導を実施
指導等の例
進路指導 就農形態・事例等の情報提供
目標とする経営イメージを形成する個別面談（就農意欲向上）等
就農準備 支援制度・融資等の活用指導
支援 法人就農希望者と農業法人とのマッチング
農地の確保等、地域の関係機関と連携した就農支援

【実習用ほ場のイメージ】

- ①水稻(品種別、移植・直播) ②大麦・大豆(品種別)
③白ねぎ ④里いも ⑤大根 ⑥施設野菜(トマト・小松菜)
⑦チューリップ球根・切花 ⑧果樹(りんご・なし) など

・園芸作物については、県園芸振興品目を中心を選定
・巡回方式については、全体、グループ分けなどを検討



機械演習のイメージ

機械研修センターの練習コース等を活用し、農業機械の基本操作を学ぶ

住所 富山市婦中町東本郷101

・練習コース走行

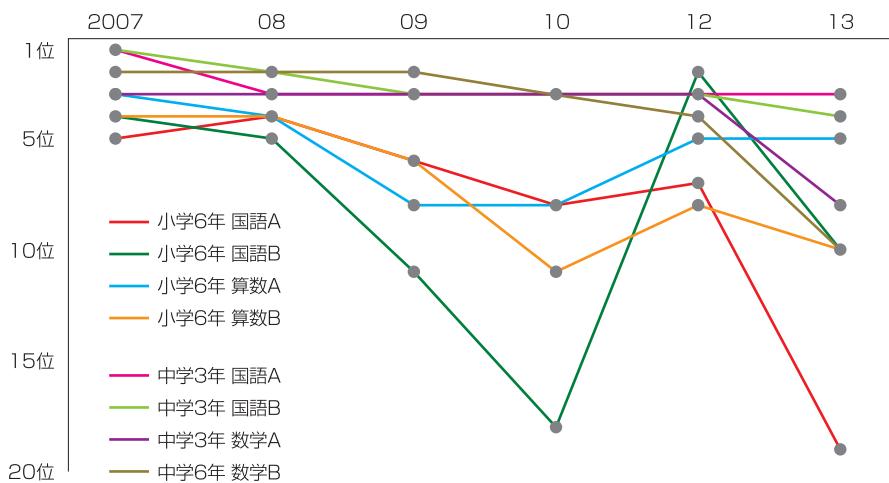
・ほ場での耕耘運作業

・作業機の着脱、点検整備



児童生徒の学力は大丈夫か！

平成25年度の全国学力・学習状況調査において、本県は平均正答率がほとんどの分野で前年度を下回り、順位も下落する残念な結果となりました。



また、生活実態調査の結果も公表されており、全国平均と比較して家庭での学習時間が少ない、テレビゲームをする時間が多いためなどが明らかになっており、順位下落の原因としては、教室での授業だけではなく児童生徒の生活習慣にまで踏み込んだ詳細な分析が必要と考えます。

そこで、学力向上には生活習慣も含めた総合的な対策を講じるべきと考え、教育長の所見を伺いました。

(平成25年11月)

◎教育長の答弁要旨

平成25年度の全国学力・学習状況調査結果を受け、学力向上対策検討会議を設けこれまでの取り組みを総点検しつつ、他県と

11月補正予算案に盛り込んでおります。

また、委員からは学習習慣の定着には家庭と学校が協力して取り組むこと、スマートフォンやテレビゲームなど遊びの時間と勉強の時間を区別するなど、子供たちが生活をコントロールする力を育てることなどの意見もいただきましたので、早速、教育委員会では、学習習慣や生活習慣の定着に関する保護者用リーフレットを今年度中に作成して、担任から保護者に直接手渡しできるようにしていきたいと考えております。

会議でPTAの代表の委員から、普通のパンフレットなどと同じように子供に渡して親に配るといったような方法よりも、通知表と一緒に担任の先生から親に直接渡したほうが効果があるという大変いい御意見をいただきましたので、そのように進めていきたいと思っております。

今後とも、検討会議で議論を重ね、実効性のある具体策を検討していきたいと考えております。

の比較などによりまして、どこに課題があるのか分析し、学力向上対策について検討を進めています。

当面直ちに取り組む対策として、各学校の主体的な取り組みを支援するため、学力調査の結果を分析し課題を把握するためのソフトを作成して、今月全ての小中学校に配布しました。

また、授業の改善を支援するため、授業アイデア集や対策のヒントなどの資料を作成配布しますとともに研修会を開催することにしており、必要な経費は

喝！

毎回上位県の秋田や石川は全国平均との差を広げた教科があったのに対し、富山は全ての教科で全国平均との差が縮まっている。学力テストの結果を十分に活用して教育指導の改善を行った学校の割合も、小中学校とも上位県を大きく下回っており、本気で学力向上に向けた対応をしているとは感じられません！

学校週6日制導入についても、昨年質しても文部科学省の方針が出ないと対応できないとの一点張りだ。今後ともしっかり質していきます！

もっとスポーツが楽しめる富山県にしよう！

昨年から、スポーツ界では県人の活躍が相次ぎました。世界レスリング選手権で高岡市出身の登坂絵莉選手が金メダルを獲得。富山第一高校のサッカーの全国制覇。県内企業のダイチに所属する田畠真紀、穂積雅子の両選手がゴソチ五輪に出場など、こうした活躍は大変喜ばしいことですが、県民全体のスポーツ振興という点ではまだまだ課題があります。

平成23年度における本県成人の週1回以上のスポーツ実施率は41.6%と全国平均45.3%を下回っており、スポーツのすばらしさを知ってもらうことはもとより、そのための人材の育成、また老朽化した施設の改修や競技種目が増え、施設の利用度が高まる中、多目的に使える施設の充実整備が重要であることから、県営野球場や

武道館、県総合体育センターなどスポーツ施設の整備改修について検討会を設置するなどして積極的に取り組むべきと考え、知事に伺いました。

(平成25年11月)

◎知事の答弁要旨

本県のスポーツ施設は建設から30年経過した総合体育センターなど老朽化が進んでいるものもありますので、施設の適切な維持管理が必要だと思っております。

県営野球場については、本年度にスコアボードの改修、来年度はスタンド、外壁の補修工事を行うほか、御要望の強い外野の拡張についても設計を行ってまいりたい。

としております。

早速、教育委員会や土木部など府内の関係各課から成るプロジェクトチームを年内に立ち上げ、県営野球場とか総合体育センターあるいは県営武道館などの施設の現状をまずは点検調査しますとともに、関係団体の御意見も伺いながら、厳しい財政事情ですけれども、必要なものについては、やはり緊急度、優先順位もあると思いますが、順次整備、改修する計画を検討しますなど、スポーツ施設の機能の維持充実に努めてまいりたい。



!! 施設の改廃、民間資金の活用も含め、積極的に取り組むべし！

富山県武道協議会を立ち上げました。

柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道、県営富山武道館の10武道団体で富山県武道協議会を設立し、初代会長に就任しました。今後は、一致協力して、武道を県民の皆さん、特に、青少年の間に普及奨励し、武道による心身の練磨を通して健全育成を図っていくとともに、そのための拠点として、新しい県営武道館建設も視野に入れながら活動を行っていくこととしておりますので、ご支援よろしくお願いします。

今年の言葉「一灯照隅」

今年の言葉として「一灯照隅」を選びました。

安岡正篤先生曰く「一灯照隅」とは、自分のいる場所を照らす、ということである。人は皆、一人一人が一灯となり、自分のいる場を照らして生きねばならない。

それでは、自分を照らすにはどうすればよいか。

一つは「主」である。主の「、」は炎、「王」は台座。今いる場で燃えて生きる。燃えて生きれば自ずと周囲を照らす。それが自分の人生を自分が主人として生きる、ということである。今いる場で燃えて生きなくて、主人として生きることはできない。

そして、自分の周りを照らせば、その火でもって他の人に点じていき、次の世代にも継いでいくことになる。

以上のような意味だと解説しており、この言葉に出会った瞬間、自ら、「ハッ」としました。今年は「一灯照隅」の気持ちを忘れず、常に初心に帰り、一生懸命頑張りたい思いで揮毫しました。



富山のまちを歩いて・・・

富山のまちを歩いてみました。大変きれいになったなと感じます。もうまちの中に公園を造る発想ではなく、公園の中にまちがある、こんな富山のまちにしたいと、いつも思っています。少しずつ近づいているような気がします。

しかし、ライトレールなどの沿線は駐車場が目立つだけで何となく活気がなく、生活の匂いが感じられないのは寂しいですね。新幹線効果を引き出すことは大切ですが、何よりもそこに暮らす県民が元気で幸せになることです。

西町周辺もゆっくり変わろうとしていますが、これからです。急変する世界経済の中で、グローバルになればなるほど、ゆっくりと休める時間が、そして場所が必要だと思います。その場所を提供できるのは富山のまちであってほしいと思っています。そのためのまちづくりにいろんな知恵と工夫がこれから求められるし、何といっても、きれいだけではなく、美しいと言われるまちづくり、にぎわいのあるまちづくりの創造に努力していかなければならないと思っています。



地場もん屋前



西町周辺



旧大和跡地の再開発



池田屋安兵衛商店前



おわりに

大震災から3年！

東日本大震災が発生してから3年が経ちました。発生した年、仲間25人で被災地の陸前高田市小友町へボランティアに行ったことがきっかけになり、私は、毎年小友町を訪れてきました。また、議会、土地改良区、ライオンズの皆さんとも訪れています。特に、昨年、仮設住宅では「私たちを忘れないで欲しい、何も持て来なくていいから、来てもらうだけでいい」と言われたことが、脳裏から離れません。今年も行ってきます。皆さんも是非、被災地に行き、現状を見て、話を聞き、できれば少しでも何かを買って元気づけして頂けたらと良いと思っています。よろしくお願いします。